

圧縮空気混入低比重

GET SYSTEM

ゲットシステム

超速硬化ウレタン防水 **ゲットシステム**

ゲットシステムは、衝突攪拌方式による超速硬化ウレタンを圧縮空気の混合により微粒子化させて防水層を形成するシステムです。ウレタン防水の低比重化（軽量化）に成功し、従来の超速硬化ウレタンと比べて使用量は同じでも厚みを増した塗膜を形成する、新発想の防水システムです。JIS A 6021の規格値以上の物性を確保し、信頼性と経済性の両面を持ち合わせ、付随する様々な性能によりウレタン防水の可能性を大きく広げます。



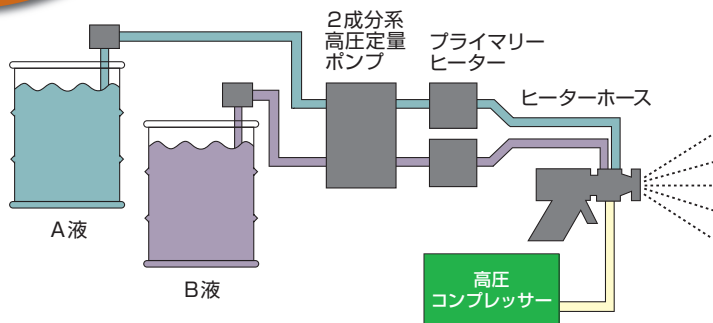
JIS A 6021 高伸長形(旧1類)の規格値以上の物性を確保しているから

従来の超速硬化ウレタンと材料使用量が同じで

厚みがUP ▶ 信頼性UP

新技術

圧縮空気混入吹付けシステム



広がる適用用途



スレート屋根改修



シングル屋根改修



安全対策施設

特長1

高い被覆性能 (ピンホール抑制効果)

通常の塗布型ウレタンや超速硬化ウレタンは、下地に巣穴等がある場合ピンホールやへこみが発生しやすく、下地はポリマーセメント等で平滑な面をつくる必要があります。ゲットシステムは被覆性能に優れるため、平滑処理することなく防水層が形成できます。

従来の超速硬化ウレタン

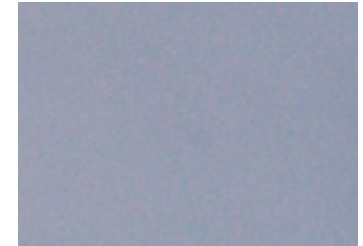
吹付け3回目の状態



ピンホールが発生

ゲットシステム

吹付け2回目で平滑



被覆性能が高く下地処理をせずに防水施工が可能です。

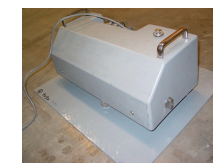
表層が粗面な砂付アスファルト防水の改修も平滑処理無しで施工が可能です。



特長2

優れた吸音性

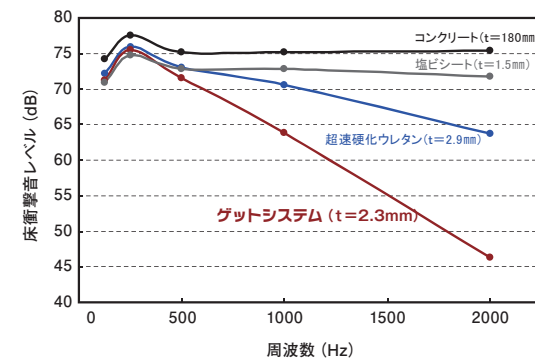
クッション性があり、従来のウレタンやシートに比べ吸音性に優れます。



■試験方法 (JIS A 1418-1) :
[建築物の床衝撃音遮断性能の測定方法]
(第一部 標準軽量衝撃源による方法) より

- 試験体:
- ①コンクリート t=180mm
 - ②超速硬化ウレタン t=2.9mm
 - ③**ゲットシステム** t=2.3mm
 - ④塩ビシート t=1.5mm

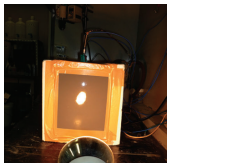
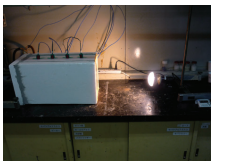
■床衝撃音遮断性能測定結果



特長3

遮熱性能の付加

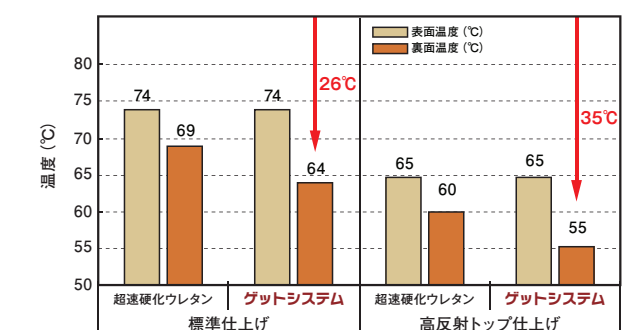
高反射トップコートと組合せた場合、圧縮空気により一層の遮熱効果が得られます。



■試験方法 (自社評価) :
試験体に赤外線ランプを照射させて、所定の表面温度に調整する。定常状態となつてから、試験体の表面・裏面の温度を測定する。
表面温度: 90℃

- 試験体:
- ①超速硬化ウレタン 厚み3mm
 - ②**ゲットシステム** 厚み3mm
- 両試験体ともに仕上りを標準的なグレー仕上げと高反射トップ仕上げにて比較

■遮熱性能評価測定結果



露出防水改修工法

適応下地：砂付きアスファルト (3mm^{※1}) **G-OR-S (3mm^{※1})**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	—	—	現場の状況により、プライマーを塗布する場合があります。
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	現場の状況により塗膜厚が増える場合があります。(別途見積)
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●現場の状況により下地処理をする場合があります。

適応下地：砂付きアスファルト (5mm^{※1}) **G-OR-S (5mm^{※1})**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	—	—	現場の状況により、プライマーを塗布する場合があります。
2	GET-1000	2.5kg (5.0mm ^{※1})	現場の状況により塗膜厚が増える場合があります。(別途見積)
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●現場の状況により下地処理をする場合があります。

適応下地：塩ビシート **G-OR-E**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	層間プライマー-E	0.15kg	現場の状況によりプライマーの種類と塗布量が異なります。
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

適応下地：ウレタン塗膜 **G-OR-U**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	層間プライマー-J	0.1kg	
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

※1 厚みは参考値：施工環境(温度・湿度など)により変動することがあります。
 ※2 オートトップ・ワン(高反射色)の場合、塗布量は0.3kg(0.15kg/㎡×2回塗り)となります。

●納まり等詳細については、営業担当までお問い合わせください。

屋根材改修工法

適応下地：シングル屋根 (3mm^{※1}) **G-Y-S (3mm^{※1})**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	—	—	現場の状況により、プライマーを塗布する場合があります。
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	現場の状況により塗膜厚が増える場合があります。(別途見積)
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●現場の状況により下地処理をする場合があります。

適応下地：シングル屋根 (5mm^{※1}) **G-Y-S (5mm^{※1})**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	—	—	現場の状況により、プライマーを塗布する場合があります。
2	GET-1000	2.5kg (5.0mm ^{※1})	現場の状況により塗膜厚が増える場合があります。(別途見積)
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●現場の状況により下地処理をする場合があります。

適応下地：コロニアル屋根 **G-Y-C**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	DSプライマー・エコ	0.2kg	現場の状況によりプライマーの種類と塗布量が異なります。
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	現場の状況により塗膜厚が増える場合があります。(別途見積)
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●下地処理方法については別途ご相談ください。

適応下地：金属屋根(防水仕様) **G-Y-K**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	プライマー-PW-F	0.15kg	
2	GET-1000	1.0kg (2.0mm ^{※1})	
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●下地処理方法については別途ご相談ください。

適応下地：スレート屋根 **G-Y-SR**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	DSプライマー・エコ	0.2kg	現場の状況によりプライマーの種類と塗布量が異なります。
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	
3	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※2}	

●下地処理方法については別途ご相談ください。

※1 厚みは参考値：施工環境(温度・湿度など)により変動することがあります。
 ※2 オートトップ・ワン(高反射色)の場合、塗布量は0.3kg(0.15kg/㎡×2回塗り)となります。

●納まり等詳細については、営業担当までお問い合わせください。

高耐久工法(15年保証)

絶縁仕様 **G-15A**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	オープライマー他	0.2kg	現場の状況によりプライマーの種類と塗布量が異なります。
2	自着シートMQC	1.0m	
3	GET-1000	2.5kg (5.0mm ^{※1})	
4	ASTopp・ゼロ	0.25kg	2回塗り

立上り仕様 **G-15L**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	プライマー-PW-F他	0.2kg	USウレタンプライマーも選定できます。
2	GET-1000	1.5kg (3.0mm ^{※1})	
3	ASTopp・ゼロ	0.25kg	2回塗り

密着仕様 **G-15B**

工程	材料	数量/㎡	備考
1	プライマー-PW-F他	0.2kg	USウレタンプライマーも選定できます。
2	GET-1000	2.5kg (5.0mm ^{※1})	
3	ASTopp・ゼロ	0.25kg	2回塗り

※厚みは参考値：施工環境(温度・湿度など)により変動することがあります。

●下地によっては適用できない場合がありますので、必ず営業担当までご相談ください。

ウレタン防水複層仕様

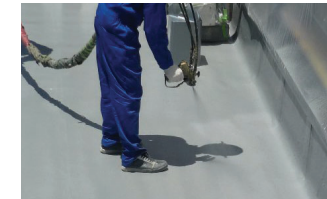
G-DB

工程	材料	数量/㎡	備考
1	各種プライマー	—	
2	GET-1000	1.3kg以上 (1.6mm以上 ^{※2})	
3	GET-1000 ^{※1}	2kg (2.0mm以上 ^{※2})	硬化物密度1.0タイプ
4	各種トップコート(高反射色)	0.2kg ^{※3}	

※1 工程3のGET-1000(硬化物密度1.0タイプ)は、同硬化物密度の材料(エパコートSP-100等)も選択が可能です。(別途見積)
 ※2 厚みは参考値：施工環境(温度・湿度など)により変動することがあります。
 ※3 オートトップ・ワン(高反射色)の場合、塗布量は0.3kg(0.15kg/㎡×2回塗り)となります。

MQC防水層品質管理システム

ゲットシステム



自着シートMQC



+

↓

非破壊式膜厚検査

施工面に塗布したウレタン防水材が硬化後、非破壊式膜厚計(渦電流式あるいは超音波式)を用いて膜厚が確保できているか確認できます。探触子を対象表面に接地するだけで測定ができるため、防水層に穴を開けることなく確認できます。また、測定対象となるのが超速硬化ウレタン『GET-1000』であるため、吹き付け直後に測定可能。万一、膜厚が足りない部分を確認された場合でもその場で増し吹きして是正します。



シートに特殊加工が施されており、探触子を接地するだけでウレタン塗膜を傷付けることなく膜厚を測定できます。



一般的には…
 通常は入針式膜厚計で測定するのが一般的です。しかし、この方法ではせっかく築いた防水層に穴を開けることになり問題視する声も出ていました。

測定の度に防水層に穴が…